

奈良県臨床検査技師会誌

まほろば

Vol.34.

通巻111号

2020年12月



一般社団法人 奈良県臨床検査技師会

目 次

		頁
1 会長挨拶	勝 山 政 彦	1
2 各部局だより	3
3 検査研究部門・分野だより	12
4 奈臨技総会報告		
2020 年度奈良県臨床検査技師会 定時総会開催報告	18
一般社団法人 奈良県臨床検査技師会		
2020 年度定期総会議事録	19
5 新型コロナウイルス感染症への取り組み	小 泉 章	28
	山 口 直 子	29
6 国際学会に参加して	松 谷 勇 人	30
7 技師連盟活動の重要性について	倉 田 主 税	33
8 新人紹介	35
9 御恵贈御礼	39
10 編集後記	41
11 奈良県臨床検査技師会会員名簿	

会長挨拶

一般社団法人 奈良県臨床検査技師会 会長 勝山政彦

中国湖北省武漢市を発生源とする新型コロナウイルスのパンデミックにより、日本では4月に「緊急事態宣言」が政府より発令され、5月には「新しい生活様式」が厚労省から提言されました。“不要不急の外出の自粛要請”や“ソーシャルディスタンスの確保”，“3密の回避”など、今回の感染症により、わたしたちの生活は様々な面で影響を受けました。

奈臨技では感染拡大防止のため、第37回奈良県医学検査学会を中止し、2020年度定時総会は新旧理事を中心とした少人数で開催し、併せて7月以降の研修会、勉強会は年度内中止としました。

そのような中、学術部長を中心にオンライン研修会ワーキンググループが立ち上がり、9月18日には微生物・遺伝子検査部門が、Webを利用して新型コロナウイルスをテーマに緊急合同講習会を開催しました。参加登録者数は171名でした。

日臨技においても、第69回日本医学検査学会の開催を4月から9月に延期し、会場も仙台から幕張メッセに移して、会場とWebを組み合わせたハイブリッド方式で開催しました。

Webを利用する研修会や勉強会には、一長一短はありますが、会場に行く時間や経費の節約ができることは大きなメリットになります。会場参加に不便を感じていた方や忙しくて参加できなかった方にも、これを機会に、是非参加していただきたいと思います。慣れるまでは、参加する側も提供する側も戸惑うことがあると思いますが、より良い活動にする為には、皆さんの知恵や力が必要となりますので、今以上に「感染拡大防止と奈臨技活動」に、ご理解、ご協力をお願い致します。

また、常日頃お力添えをいただいている賛助会員の皆様におかれましても、無料で参加が可能となっていますので、積極的に参加をお願い致します。

今年度の関連団体との活動ですが、橿原市の「ふれあい・いきいき祭り」は、かしはら万葉ホール改修工事のため中止となりました。また、臨床検査協議会の講演会と例年橿原イオンモールで開催しています「がん撲滅のための検査展」は、いずれも感染拡大防止のために中止となりました。

今後の活動ですが、今回の感染症が収まるまでは Web を利用した研修会や勉強会の開催を柱として考えています。また、日臨技と共に「臨地実習指導者育成事業」に取り組んで参ります。臨地実習指導者育成事業に関しては、改定カリキュラムが適用された学生が臨地実習に臨む時期として、2024 年 1 月頃が想定されるため、それまでに受入れ施設では臨地実習指導者を育成しておく必要があります。医療現場が求める臨床検査技師養成の観点から、受入れ施設の拡充などを推進していくことになります。

各部局だより

渉外部担当

副会長 中田 恵美子

会員の皆様におかれましては、平素より技師会活動に対しまして、ご協力頂き感謝申し上げます。昨年度に引き続き、今年度も渉外部を担当させて頂いております。

「渉外(しょうがい)」とは「外部と連絡・交渉すること」という意味です。「渉外」の「渉」は「わたる」「広く見聞する」「かかわる」などの意味がある漢字で、「外」はそと、外部を表します。つまり「渉外」は「外部とかかわること」となります。つまり、渉外部とは、奈良県臨床検査技師会の外部と関わる活動をするということです。

日本臨床衛生検査技師会の令和2年度渉外事業計画としては、以下の4点があげられております。

- ①厚労省「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト / シェアの推進に関する検討会」で示される検討結果を臨床の場で実践していくための方策を検討・立案しその実行を推し進める。
- ②令和2年診療報酬改定の分析を行い、次期診療報酬改定へ向けての基礎的調査・検討を行う。
- ③厚労省「臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会」で示される検討結果を踏まえ、教育研修部門と共同し臨床実習の教育・指導体制の整備を進める。
- ④臨床検査の職域拡大、制度の見直し、社会的地位の向上等を念頭に置き政策要望を立案し、関係各所への働きかけを行う。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、三密(密閉・密集・密接)を避けること、マスクの着用は当たり前となり、

例年通りの活動は困難となっております。奈良県臨床検査技師会としては、コロナ禍での制限された中で、できうる渉外部の活動を模索しているところであります。

また、渉外担当副会長には、奈良県臨床検査協議会(医師会、病院協会、衛生検査所協会、県、奈良県臨床検査技師会等で構成)の事務局業務があります。関連団体との連携をとり、奈良県の全ての医療機関に、良質な臨床検査の提供を目指しております。例年であれば講演会を企画開催し、協議会通信を発行しております。

渉外部担当として微力ですが頑張りたいと思っております。会員の皆様のご意見も頂きながら進めて参りますので、ご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

学術部担当

副会長 倉田 主税

2020年は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向け、政府からも緊急事態宣言が発令されました。外出自粛や移動の自粛などが求められ、感染拡大防止のために密閉空間、密集場所、密接場面を避けるという要請により、技師会の学術活動も中止せざるを得ない状況となりました。

医療に携わる臨床検査技師として新型コロナウイルス禍の事態に対処しなければならない責務があり、技師会の学術活動を行う余裕はないと思いますが、どのような状況下であっても知識と技術の向上は必要であり学術部の灯を消してはならないと思います。

学術部は、検査研究部門、精度管理部門、

生涯教育の3つの担当から構成されています。

検査研究部門は奈良県立医科大学附属病院の森嶋良一理事が担当部長としてまとめられています。大きなイベントとして、年1回開催される『奈良県医学検査学会』があります。部門長、分野長、分野員と理事で構成されている検査研究部門運営委員会が中心となり約1年かけて運営をサポートしています。2020年5月31日に「Toward the development of the 奈臨技!」というテーマで、天理よろづ相談所病院の永井直治氏が実行委員長として開催予定でしたが、新型コロナウイルス禍の影響で1年延期となりました。

また、研修会も開催出来ない状況が続いていましたが2020年7月に奈臨技オンライン研修会WGが検査研究部門運営委員会とIT委員会委員長である天理よろづ相談所医学研究所の大林準氏を中心に立ち上がり、WEBでの研修会開催の準備が進められ9月18日に「<微生物・遺伝子検査部門緊急合同講演会>新型コロナウイルス」を開催することができ、約150名の方がWEBセミナーに参加されました。2021年3月までは、集会型の研修会は実施出来ませんが今後WEB研修会が活発になると思われれます。今まで他分野の研修会に参加することに抵抗があったり、時間的余裕がなく研修会に参加することが出来なかったりした会員の皆様は、WEB研修会になったことで参加も容易になると思います。是非参加していただきますようお願いします。

精度管理担当部長には長い間ご尽力いただいた済生会中和病院の猪田猛久氏に代り、天理医療大学の中村彰宏理事が着任しています。主な事業として毎年7月に実施される奈臨技サーベイと年5回実施している長期精度管理があります。サーベイ試料の準備から精度管理調査報告会の実施に至るまで精度管理事業推進委員会が担っています。日臨技サーベイや医師会サーベイのような年1度限りの大規模な外部精度管理調査では頻度や結果返送までの時間や試料の問題点などがありますが、奈臨技では試料の1つにヒトプール血清を用いることによってマトリックスの影響を受けない工夫がされています。また、2か月に1回測定することにより迅速なサーベイ結果の報告が可能となり、2回連続で許容範囲を外れた施設には連絡を行い是正に向けた努力を継続的に行う活動に取り組んでいます。

他に、臨床検査精度保証施設認証委員会・臨床検査データ標準化委員会があります。2021年3月までに奈良県下の施設が血清アルカリフォスファターゼ（ALP）、血清乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）の活性値測定を日本臨床化学会（JSCC）の勧告法から国際臨床化学会（IFCC）の標準法への変更が出来るように奈臨技ニュース等で活動を行っています。

生涯教育担当部長は近畿大学奈良病院の小谷敦志理事が担当しています。

5名で構成されている生涯教育研修委員会が設けられており一昨年度から日臨技と奈臨技が主催し「多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会」を開催しています。病院から在宅医療、検査室から病棟や外来での検査業務、チーム医療への参加と、年々臨床検査技師に求められている業務の内容は変化しています。臨床検査技師として多職種の業務内容を知り業務を共にすることで職域の拡大に繋がり臨床検査技師の社会的な認知度の向上になると考えられます。最終的に法による臨床検査技師の身分向上が期待されます。生涯教育研修は、業務をする上で、必要不可欠な講習会を企画

していますので一人でも多く参加していただきますようお願いいたします。

これからも役員一同全力で多くの事業を展開できるよう取り組んでいく所存ですが、技師会の主役は会員の皆様一人一人であり、皆様の意見をいただきながら學術部の運営に努めて参ります。一層のご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

事務局

事務局長 嶋田 昌司

2020 年度、21 年度の事務局長を拝命しました嶋田です。どうぞ、2 年間よろしくお願い致します。会員の皆様には、洩れなく各種情報をお伝えできるよう努めてまいります。本年度は、役員改選もあり監事を加えますと 6 名の新役員が就任しました。従来からの運用を引き継ぐとともに新しい視点からの活動にも注力してまいりたいと存じます。

さて、事務局からのお願いを一つお伝えさせて頂きたく存じます。奈臨技はもとより日臨技からも様々な情報が発信され、それを会員の皆さんにはお伝えしているところですが、情報の伝え方に課題やご不満はありませんでしょうか。と言いますのも、会員の皆様および施設連絡責任者の方に回答やお返事をお願いすることも多々ございますが、回答、返信率が悪うございます。本年度の総会での一般質疑において奈臨技発刊物の発行形態を考えてみてはどうかという指摘がございました。早速、アンケートを実施してみたところ回答率は 20%程度でありました。また、検査体制を問う施設連絡責任者の方へのアンケートでは回答数はわずか 6 施設。15%程度の回答しか寄せて頂けませんでした。奈臨技は会員の皆様により運営され、今後の方向性が導かれて

いかなければならないと思います。我々役員はそのまとめ役を担っているだけであります。業務のご都合も各所様々であり行動することは難しい会員の方もあろうかと存じますが、ぜひ、多くの声をお寄せいただき更なる奈臨技発展のためにお力添えをお願いしたいと存じます。

選挙演説のようになってしまいましたが、奈臨技会員も600名を越え更なる飛躍を目指し、役員一同邁進しております。本年度も宜しくお願い致します。

事務局総務部

田中 忍

今年度から奈臨技理事の一員として、事務局総務部を担当することになりました。事務局総務部は奈臨技の組織運営規程において、以下の事務を司ることになっています。

①会務の報告に関すること。②文書の受発信に関すること。③会議及び議事録に関すること。④事務所の管理に関すること。⑤会員の動向に関すること。⑥職員人事に関すること。⑦前各号に掲げるもののほか、他の主管に属さないもの。

以上の中で私が担当するのは、③会議及び議事録に関することです。毎月、各理事が活動された行動報告・経過報告および提案された議題を基に、議案書を作成します。未だ詳細が呑み込めないままに文書を作成していますが、それでも今年は様子が違うことが感じられます。コロナウイルス感染症の影響でイベントや研修会等がことごとく中止になり、報告件数が減りました。しかし最近では、webを活用した研修会を開催していこうという方針が決まり、今後徐々に行動報告も増えてくるのではないかと考えています。

ところで、日々、研修会の案内や日臨技からの情報などたくさんのメールが届いていると思います。その受発信を担っているのも総務部です。

また、総務部の中の庶務係が毎月会員の動向を調査しています。入会や退会の連絡はいただきますが、施設変更の連絡が無いことが多いようです。該当する会員がおられましたら忘れずご連絡をお願いします。

皆さんのお手元に届けられる奈臨技ニュース等の発刊物の配布も、総務部が担当しています。発刊物については、メール発信やホームページへの掲載でよいのではないかという声もあります。ICTを活用した活動に切り替えていくことも、今後の運営を継続させるために必要ではないかと思えます。皆様のご理解とご協力をお願いします。

事務局経理部

上杉 一義

平素より会員の皆さまには奈良県臨床検査技師会事業推進につきましてご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

会員の皆さまにおかれましては未曾有の災禍の中ご苦勞はいかほどかと拝察いたします。全世界で新型コロナウイルスの感染が長期化する中、日々医療の最前線で患者さんの治療に尽力されている医療従事者や医療関係者の皆さまに、心から敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響から、今年度開催予定であった第 37 回奈良県医学検査学会や各研修会をはじめとする事業が延期・中止になりましたこと、また、今後の事業においても延期や中止が予想されることにつきましては、会員の皆さまに多大なるご迷惑をおかけしますが、ご理解・

ご了承の程よろしく願い申し上げます。

さて、今年度より奈臨技理事会は新たな体制（5名の新理事、1名の新監事）のもと、活動しております。長年共にした理事の方々が次々と退任される中、愚生私は継続6期（11年目）の理事を務めることとなりました。渉外部1期、地区担当部（経理部兼任）1期、経理部3期を経ての2020、2021年度も経理部長を仰せつかりました。今期こそ先々のことを勘案して経理部後任者養成のことを念頭に置き、業務に尽力していきたいと考えております。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、全国的にテレワークが浸透していますが、職種だけでなく、部署によってもテレワークが難しいことがあります。経理業務も例外ではなく、コロナ禍においてすべての業務をテレワークで実施できたのは3割以下といわれています。そのなかでも、テレワークを実施したが、仕事の効率が落ちている：43%、変わらない：41%、上がっている：16%との回答もあります。かく言う技師会経理部も、事業の中止やWeb会議等で経費精算の件数が一見減ったことで作業負担が軽減されたように見えますが、実際は精算業務に時間がかかる等の問題も出ています。以前は少なくとも月1回は理事会で顔を合わせることでその場で精算ができていましたが、現在はWebでの理事会となり精算が滞ることで理事の皆さまにはご迷惑をお掛けしております。（業者便等での現金の受け渡しや個人口座への振り込みはセキュリティ上、原則控えています）また、請求書（現状はまだ紙の請求者が多い）、支出命令書の受け渡しについても業者便に頼りることが多くなり、お願いしている業者の方々にはご負担ご迷惑をお掛けしておりますことお詫び申し上げます。

最後になりましたが、おかげさまで当会
会員数は歳々増加しており、2020年8月
末現在で660余名となりました。また、
賛助会員の皆さまにおかれましてもこの
ような状況の中ではありますがご賛同
いただきましたこと、深く御礼申し上げま
す。皆さまからの会費の管理・運用につ
いては明確性、透明性を確保したうえで、
効果的・効率的かつ適正に執行してい
きたいと考えております。

今まさにコロナ禍の中、理事会が先導
に立ってどのように活動していくか、当
技師会のあり方が問われる時であります。
今年度後半(9月～)にはオンラインで
の研修会開催を逐次予定しており、さら
には公開講演会等の医療啓蒙活動もオン
ラインでの開催を模索しております。

会員の皆さま、賛助会員の皆さまにお
かれましては先を見通しづらい状況では
ありますが、くれぐれもご自愛して
いただき、引き続き、技師会のさらなる躍進
のために変わらぬご厚誼を賜りますよう
よろしくお願い申し上げます。

組織法規部

西原 幸一

奈良県臨床検査技師会 会員の皆様、日
頃より技師会活動にご協力を賜り誠にあり
がとうございます。

今年度より組織法規部を担当させてい
たできます。初めてのことばかりで戸惑うこ
とも多々あると思いますが、皆様のお力
をお借りしながら一生懸命、頑張りますので
よろしくお願い致します。

今年度はコロナウィルスの影響で、学会
や講演会、研修会など集合形式の企画が軒
並み中止となっておりますが、組織法規部
としては施設代表者会議・連絡責任者会議

を何らかの形で開催できるよう努めてい
きたいと考えています。

理事と会員で構成されている組織法規部
委員会を設立し準備して参ります。皆様
のご協力よろしくお願い致します。

学術部検査研究部門担当

森嶋 良一

会員の皆様には平素より技師会活動に
ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。
います。

学術部検査研究部門を担当させて頂い
ております奈良医大の森嶋良一です。

今年度の活動につきましては皆様もご
存知のとおり新型コロナウイルス感染拡大のた
め、今まで通りの対面での研修会開催は
厳しい状況が続いております。また、検
査研究部門運営委員会において1年をか
けて準備してきました5月31日に開催予
定であった第37回奈良県医学検査学会も
1年延期となり、特別企画講演での講師
の先生および一般演題ご登録の先生、ご
準備にお力添えを頂戴しました多くの
の方々にご迷惑をお掛けいたしましたこと
をお詫びし、来年の開催にもご協力を賜
りますよう重ねてお願い申し上げます。

日本臨床検査技師会より2020年5月
28日付で「令和2年度都道府県技師会主
催研修会・講習会の運用について」の通
知の中で、「オンライン研修会等」に関す
る暫定処置の決定が通達されました。こ
れを受け、奈良県臨床検査技師会として
「オンライン研修会」開催に向け、検査研
究部門を中心としてワーキンググループ
を発足させ開催準備を進めてきました。
今後、会員の皆様が安全に安心して学術
活動ができるよう「オンライン研修会」
を充実させて行きたいと思っております。

検査研究部門では、コロナ禍においてのこのピンチを、現在まで経験のない「オンライン研修会」を普及させるチャンスに置き換え、部門長、分野長および分野員の方々と共に頑張っております。しかしながら不慣れな点から会員の皆様にはご迷惑をおかけする事もあるかも知れませんが、その際には何卒ご協力の程よろしくお願ひします。また、多くの会員の研修会へのご参加を期待しております、みんなで「オンライン研修会」を盛り上げて行きましょう！

最後になりますが、「オンライン研修会」ワーキンググループのメンバーの皆様にはお忙しい中ご協力を賜り本当に有難うございました、心から感謝申し上げます。

学術部 精度管理担当

中村 彰宏

2020年度より奈良県臨床衛生検査技師会学術部 精度管理担当理事を務めさせていただくことになりました。主な業務の内容は毎年会員の皆様に実施していただいている精度管理調査事業の総務・総括です。自身は2008年4月から2010年3月までの2年間にわたって微生物検査分野 精度管理委員長、そして2012年4月から2018年3月までの6年間にわたって一般検査分野 精度管理委員長を務めさせていただきました。その際に様々な経験を積ませていただき、地方技師会において精度管理事業を実施するメリットをすごく実感いたしました。地方技師会における精度管理事業は、全国サーベイとは違った少数施設における密着型の精度管理事業が実施可能と考えております。また、不適切データに関する是正のアプローチに関しても柔軟に対応し、ご参加

いただいた御施設により貢献できるように務めさせていただきたいと考えております。そのためには、各分野における精度管理委員の皆様方の多大なるご協力およびご助言が必要不可欠です。臨床検査の品質保証において、外部精度管理は大変重要な役割を担っており、この更なる発展のために尽力いたしますので、今後とも当活動にご協力のほどお願いいたします。

学術部 生涯教育担当

小谷 敦志

会員の皆様方におかれましては平素より技師会活動へのご参加ご協力いただき誠に有難う御座います。生涯教育担当小谷です。今期もどうぞよろしくお願ひいたします。

国民の医療に対するニーズの多様化、複雑化により臨床検査技師の職域も検査室から外来や病棟、病院から在宅へと幅広い医療提供が求められ、チーム医療の推進が加速されています。このような医療提供体制の変革が求められている中で他職種の業務等を学び、チーム医療に積極的に参画することで医療の質の向上に貢献することを目的として、昨年度「ベッドサイド実践講習会」を日本臨床衛生検査技師会と奈良県臨床検査技師会が主催で開催しました。これは3年間の継承事業として2年前に開始され昨年度で2度目となります。3年目となる今年度は日臨技の意向で中止となりました。この講習会は、専門性ととも患者の近くで業務を実践するために必要な幅広い知識・技術を有した臨床検査技師を多数育成する目的であったため非常に残念でなりません。その他、今年度は統計学についての基礎

的研修会を開催予定としておりましたが、コロナ禍の影響で予定がたたなくなっております。開催に向けて最善を尽くしたいと考えておりますのでみなさまのご協力を心から願っております。

例年、生涯教育からの講習会や研修会は臨床検査技師として是非知っておきたい内容を企画しております。開催の際には多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

渉外部

高木 豊雅

平素は渉外部の活動にご協力頂き、ありがとうございます。

渉外部理事を担当させて頂いております高木です。令和2年3月1日(日)に「かしはら万葉ホール」にて開催予定でした「人生100年健康寿命の延伸に向けて～生活習慣病を予防しよう～」はその数ヶ月前から突如出現し奈良県でも日本最初の感染者が発生した新型コロナウイルスの影響により中止を余儀なくされました。企画委員の皆様、並びにご協力いただいた会員の皆様はこの場をお借りしてお礼とお詫びを申し上げます。

毎年我々渉外部が企画開催する公開講演会は、県民の皆様幅広く疾患についての啓蒙を行うことで健康維持・予防に役立てていただく予防医学を目的としています。今回は原点に立ち返り、ポピュラーな生活習慣病をテーマとし、特定非営利活動法人 日本成人病予防協会 安村禮子先生にご講演をお願いいたしましたがこのような結果となり残念です。

次回からは3密を避けるために公開講演会という形式はとらず新たな形にする計画です。現在もオンラインで企画を練っていますが具体的には新型コロナウイルス対策として各病院が行っている活動をネットで公開するといったものになるかと思います。

今後も多数の皆様に見ていただけるような企画をして、臨床検査技師、検査技師会の広報に努めますので、会員の皆様のご協力を何卒宜しくお願いいたします。

地域保健事業部・公衆衛生担当

南田 貴仁

会員の皆様におかれましては、平素より日臨技の公益委託事業活動に参加協力していただきましてありがとうございます。

地域保健事業・公衆衛生担当といたしましては、本年度も公益活動を通しまして、一般の方に臨床検査について正しい知識の普及、啓発活動を行い皆様のお役に立てるよう頑張っまいると考えております。

しかしながら、コロナが世界中で猛威をふるっており、実際に検査を体験していただくこと、幅広い年齢層の方に健康づくりへの意識高揚を図っていくこと、若い世代にも臨床検査の世界に興味を持っていただけることを目的とした検査展等を企画し開催することは困難と判断致しました。

とても残念ではありますが、一刻も早い終息を願っております。

今後とも、臨床検査技師の認知度の向上と国民のみなさまに公衆衛生に対する理解を深めるために更なるご協力をよろしくお願いいたします。

地域保健事業部

西川 武

令和 2 年度の活動状況ですが、橿原万葉ホール改装のため、橿原市ふれあい・いきいき祭は開催中止となり、さらにコロナ禍の影響により、奈良糖尿病デー2020 の開催も中止されました。従いまして、2020 年度におきましては、地域保健事業部としての活動が困難となりました。今後につきまして、おそらく両事業とも、今後の開催については継続されてゆくと思われませんが、ウイズコロナの時代となり、地方公共団体や他の医療団体などが主催する公益事業の開催方法が変化する可能性もあります。

これら時代の流れに柔軟に対応し、来年度以後も健康増進の推進事業に積極的に参加・協力していく所存です。また、これらの事業を通し、県民への臨床検査啓発活動を推進してまいります。今後ともご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

広報部

小林 昌弘

会員の皆様におかれましては平素より奈良臨技広報部活動に参加、協力頂きありがとうございます。

本年度より広報部を担当させて頂くことになりました。まだまだ不慣れでありご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆様のお役に立てるよう頑張ってお参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

広報部の主な仕事は毎月の奈良臨技ニュースの発行、会誌「まほろば」の発行、そして各催しの取材です。

奈良臨技ニュースは生涯教育研修会の予定、日臨技からの連絡、学会の参加記、研修会の報告などを掲載しています。会員の方々に原稿を依頼しますので快く引き受けて頂けたら幸いです。また、原稿の締め切りは前の月の15日になっています。印刷の依頼日と仕上がり日との関係で印刷料金が変わってきます。原稿の締め切り日を守って頂きますよう改めてお願いします。

会誌「まほろば」は年1回の発行です。原稿依頼、広告掲載、会員名簿など内容が多く発行までには時間がかかります。今回原稿を書いて下さった会員の皆様、ご協力ありがとうございました。また新しい企画などございましたら教えてください。

各催しの取材も大事な仕事です。今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため実施できませんでしたが、公開講演、検査展など奈良臨技関連の行事の取材を行っています。これらは奈良臨技ニュース、会誌「まほろば」の貴重な資料になり、また奈良臨技行事の記録にもなります。取材の際にはご協力をお願いします。

今度とも奈良臨技ニュースや会誌「まほろば」を通じた情報発信に努めて参ります。会員の皆様には広報部活動にご協力頂きますよう改めてお願い申し上げます。また奈良臨技ニュース、「まほろば」ともに希望される内容、ご意見などございましたら広報委員までお知らせ下さい。

福利厚生部

三角 由美

会員の皆様におかれましては平素より奈良臨技の活動に参加協力頂きありがとうございます。

福利厚生部の業務として学会や研修会・各行事に安心して参加して頂けるように障害賠償保険の加入手続きをしています。各行事の予定が決まりましたら連絡ください。

もうひとつの業務としてアウトドア同好会でハイキングや社会見学などを企画しています。これを通して、会員の皆様とそのご家族が楽しんでいただける事、親睦を深める事が出来ると思います。会員の皆様が参加したくなるようなものを委員のみんなで企画していきます。何か希望があれば委員のメンバーに連絡してください。また、皆さんもご存じと思いますが、年1回ボーリング大会も開催しております。運動不足の解消やストレスを発散して頂き、会員同士の親睦を深めていただければと思います。

ただ、新型コロナウイルスの感染拡大で3密を回避する必要がありWebで何かできないか検討してみましたが、実施は今のところ難しいとの結論に至り、今年度のアウトドア同好会の行事は申し訳ありませんが出来ませんのでご了承ください。その分、新型コロナウイルスの感染が落ち着くことを期待して年度末（2月～3月）でボーリング大会を盛大に（豪華景品を用意）行いたいと思います。自粛生活が長引き感染対策で気を使い業務も増えていると思います。会員の皆様、ボーリング大会が企画できましたら、一緒に楽しくゲームをして溜まったストレスをみんなで発散しましょう！たくさんの参加お待ちしております。

《追記》

私、今年度初めての理事就任です。解からないことだらけですので、ご指導して頂けると助かります。よろしくお願ひします。

地区担当

木下 真紀

日頃より、奈良県臨床検査技師会の活動にご協力いただきありがとうございます。また、橿原ふれあいいきいきまつりや癌撲滅のための検査展など、地域で開催されるイベントや公開講演会の検査展では、実務委員としてご協力いただき感謝いたします。

例年であれば今頃は、万葉ホールやアールで行事に参加し、皆様や来場者の方々にお会いしていたのに・・・と思うと少し寂しく思います。行事に参加すると、普段はご一緒する機会のない方や久しぶりにお会いする方々とお話しでき、それぞれの施設の取り組みなどをお聞きすることができます。次回、行事が復活した際には、皆様の御施設で取り組まれている新型コロナウイルス感染防止対策について色々と教えていただきたいと思ひます。イベントは色々な施設の方々と情報交換ができる貴重な場面でもありますので、皆様もぜひ参加してみてください。もちろん実務委員として参加していただけると嬉しいのですが、いきなり委員として参加するのはハードルが高いわ・・・と思ひている方、来場者として参加して雰囲気を楽しんでみてください。きっと、おもしろい！楽しい！と思ひいただけると思ひます。

地区担当は、北部、中部、南部、それぞれ在籍しておりますので、技師会へのご要望やお気づきの点等ございましたら、お気軽に担当理事までご連絡ください。これからも技師会活動へのご協力、何卒よろしくお願ひいたします。

検査研究部門・分野だより

臨床化学分野

頃橋 信慶

今年度より臨床化学分野を担当させていただきます、奈良県立医科大学附属病院の頃橋信慶と申します。

今年度は人々の生活様式などが大きく様変わりし、検査技師を取り巻く情勢も変化しています。勉強会についても、本年度中は Web 開催が中心になると思われま

す。皆さんは日常の検査で異常値などが出た際、原因がわからず困ったことはないでしょうか。私自身以前は技師数が少ない職場にいたため、誰にも聞けず困ったことが何度かあります。ぜひ勉強会や奈良学会などを通じて技師同士の交流の場が広まり、検査における疑問点や勉強会の要望など気軽に話し合える分野でありたいと考えております。

また、2021年3月までにALP、LDにおける常用測定法をJSCC法よりIFCC法へ移行ができるよう奈良県では取り組んでおります。検査値もALPはJSCC法に比べて三分の一程度の測定値になり、LD値はLD5優位検体では低値傾向になるなど、各病院や検査センターなどから臨床の場に発信していかなければ混乱をもたらしかねません。より円滑に移行できるよう奈臨技ニュースや勉強会を通じて発信していきたいと思

います。会員の皆様、やってほしい勉強会などご意見ご要望ございましたら気軽にご連絡いただければ幸いです。今後ともご協力の程よろしくお願いいたします。

遺伝子検査部門

山口 直子

遺伝子検査部門は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）をテーマとして、奈臨技初の Web 研修会を、微生物検査部門と合同で9月18日に開催しました。研修会の Web 配信については、研修会の案内自体が直前になってしまったにも関わらず、奈臨技会員の1/4に相当する150名近い方々にご参加いただいたことを、この場を借りて感謝いたします。研修会を Web で配信することになった背景は、当然ながら COVID-19 のパンデミックがあります。奈臨技主催の研修会の Web 配信は、会員に対していち早く COVID-19 に関する情報提供をすべく、緊急事態宣言下の5月頃から合同研修会の企画を始めました。その後、5月28日に日臨技から Web 研修会の運用についての通知がなされたのを機に、奈臨技でオンライン配信ワーキンググループが7月に発足、そこで配信方法が決定され9月に Web 研修会を実施することができました。県下の検査室で COVID-19 への対応を迫られた一つに、遺伝子検査の実施があります。現在、COVID-19 の診断においては、遺伝子検査による SARS-CoV-2 の検出が主流です。研修会の前に奈良県の施設に対して行ったアンケートでは、5施設が SARS-CoV-2 の遺伝子検査を実施していると回答しました。今回のような急激に感染者数が増大するような状況では、迅速な検査態勢の構築が求められますが、いずれの施設も5月には SARS-CoV-2 の遺伝子検査を開始しておりました。

遺伝子検査は、今回の流行により社会的関心がとても大きくなっています。今後は需要の増加への対応を目的として、現在行っていない施設においても、「遺伝子検査を行える臨床検査技師の育成」が求められるかもしれません。

9月の研修会では、奈良医大 感染症センターの笠原先生をお招きしてご講演いただきましたが、その中には「臨床検査技師への問いかけ」がたくさんありました。要約すると、「常に行動して医療に貢献しよう」です。つまり「また流行した時に」、「いつか終息するだろう」などを前提に行動するのではなく、いつでもどんなことにも対応できる検査態勢を常に構築するということです。実際に、奈良県での COVID-19 の感染対策を含めた診療体制は、流行当初から整っていました。そして笠原先生は、今検査技師が貢献できることの1つに「検体採取」をあげられました。奈良県下の SARS-CoV-2 検査実施施設の内、臨床検査技師による COVID-19 患者からの検体採取の実施は、僅か1施設でした。これは検体採取を臨床検査技師が行うことは必須ではないうえ、臨床検査技師が検体採取を行えることが認知されていないためと思われます。奈臨技が奈良県主催の「新型コロナウイルス感染症に関する連絡会 (<http://www.pref.nara.jp/55238.htm>)」に9月の時点で参加できていない現状からも、社会・医療における臨床検査技師の期待度や貢献度が推察できます。だから今こそ臨床検査技師のあるべき姿を考える必要があると思います。

今後も研究班で企画する研修会は、検査能力の向上と、さらに臨床検査技師の活躍

の場を増加させることで、臨床検査技師の認知や社会貢献に繋がるようにしたいと思います。

一般検査分野

北川 大輔

今年度から部門長を担当させていただき、奈良県総合医療センターの北川大輔です。

従来、尿一般検査は様々な疾病診断へのファーストステップであり、また、様々な検査におけるスクリーニング検査として位置づけられています。臨床医の臨床検査へのニーズもさらにハイレベルなものになってきており、一般検査領域はもちろんのこと微生物分野領域や細胞分野領域などの知識も必要とされます。一般検査の情報にはその後の臨床検査の流れを決めるための大きな役割が求められています。

一般検査に従事される臨床検査技師の方は比較的経験年数の少ない若手技師の方が多い傾向にあります。奈臨技一般検査分野では、尿一般検査領域の基礎はもちろん、一般検査の情報がその後の検査そして臨床診断にどのように繋がっていくのか、また繋げるための検査のポイント、検査精度を高めるポイントなどを含め、一般検査担当技師の知識・技術の習得と向上を目的とし、企画しております。また、尿検査に限らず髄液検査や寄生虫検査に関しても網羅できる研修会の企画も予定しております。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、従来の研修会の実施が阻まれてきまし

たが、今後は新たにウェブを使用した研修会により、多くの参加者に情報を発信できると考えております。これからも会員のためになる研修会を開催するため、片岡氏(奈良医大)、森分氏(奈良医大)、尾崎氏(市総合検査)、飯尾氏(県総合)、川氏(天理よろづ)、中村氏(天理医療大)と企画を立案し、各担当を決めて研修会を実行していきたいと考えております。多数のご参加お願い致します。実行していきたいと考えております。多数のご参加お願い致します。

また、一般検査従事者には是非積極的な認定技師取得を考慮いただきたく思っておりますので、試験対策などでお困りの方がおられましたらお気軽にご連絡ください。ご協力させていただきます。

今後とも何卒よろしくお願い致します。

画像検査分野

植東 ゆみ

画像分野では例年約10回の定期勉強会と、心臓・腹部超音波実技講習会を1回開催しておりました。今年度も部門長、分野員の方々のお力をお借りして、日常検査や緊急検査に役立つ内容をテーマに定期勉強会を企画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、前半は定期勉強会を開催することができませんでした。後半の勉強会開催に向けて、奈臨技オンライン研修会ワーキンググループが結成され、ウェビナー形式で勉強会ができる体制が整いました。初めての事でかなり戸惑いもありますが、1つでも多くの勉強会を開

催できるように準備を進めたいと思います。オンライン研修会ということで、今までお時間の都合がつかなかったり、会場が遠くて来れなかったという会員のみなさまには参加しやすい環境になったのではと思います。ぜひとも勉強会開催の際は多くのご参加をお待ちしております。

実技講習会に関しても、今までのように実際にプローブを操作しながら研修して頂けません。ライブデモンストレーション形式での研修会を企画し、準備を進めています。初心者の方にもわかりやすい研修会にできればいいなと思っています。

今後も会員のみなさまと一緒にレベルアップにつながる有意義な勉強会を目指したいと思います。勉強会のテーマや内容についてご意見、ご要望などありましたら、気軽にご連絡いただければ嬉しいです。至らないことも多々あるかと思いますが、これからもご協力よろしく願いいたします。

機能検査分野

白土 美佳

昨年9月より分野長を引き継がせていただいております、奈良医大の白土です。

機能検査分野では、心電図・呼吸機能検査の勉強会を実施しています。心電図(年間10回程度)は波形の成り立ちなどの電気生理から各疾患まで幅広い内容の中から毎回ひとつのテーマに絞った内容、呼吸機能(年間3回程度)は基礎編・応用編とレベル別に分けた内容です。基礎レベルの向上を一番の目的にしておりますが、もちろん専

神経検査分野

高谷 恒範

門的な知識も効率的に得られる会です。また、当分野では伝統として『きれいにとれる』シリーズを継承してきました。心電図・呼吸機能合同で実技講習会を開催し、技師に求められる「正確できれいな記録をとること」に必要な知識やコツを共有したり、日頃の疑問などを皆で気軽にディスカッション出来る場となっています。また今後は心電図・呼吸機能合同で「心臓リハビリと CPX(心肺運動負荷試験)」の勉強会なども企画しております。心臓リハビリは多職種が関わる包括的治療プログラムです。他職種の方々の業務を知り、お互いの連携が得られるきっかけになればとも考えております。このように活発な活動が毎年あたりまえの様に出来てきたのも、講師を引受けてくださる方々、参加してくださる方々のおかげであると、「あたりまえのこと」が困難な今あらためて痛感しております。今年度はコロナ禍の中で思うような活動はまだ出来ておりませんが、こんな状況であるからこそ、オンラインでの勉強会など今後に繋がる新しいことを模索できる機会として捉え、さらに活発な分野活動を皆様と共に行ってまいりたい所存です。ぜひ勉強会等の企画へのご要望もお寄せください、分野員一同お待ちしております。これまで通り皆で盛り上げる分野であり続けたいと思っています、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

神経検査分野は、本年度も 6 回の勉強会を計画しています。筋電図、脳波検査などの検査の実技習得を目的とした「きれいにとれるシリーズ」が 2 回、初心者向けの脳波判読を目的とした「脳波の手習い」が 1 回、各疾患や脳波の異常波形について勉強する「定期勉強会」が 2 回、初心者のための ME の基礎知識を 1 回という内容で取り組んで参ります。術中神経モニタリングにおいては、施行する施設が増加して参りました。また、保険点数改定で、3610 点となったことによりさらに需要が増える可能性があります。

今年度は、術中神経モニタリングを中心に、初心者からできるような勉強会を開催したいと考えています。

今年度の予定

1. 初心者のための ME の基礎知識
2. 脳波の手習い
3. きれいにとれるシリーズ 脳神経定期勉強会
1 (基礎編)
4. きれいにとれるシリーズ 脳神経定期勉強会
2 (応用編)
5. 脳神経定期勉強会 3 (モニタリングの基礎：これだけは知っておこう！)
6. 脳神経定期勉強会 4 (波形編：これで迷わず対応できる。)

ご興味のある方は是非ご参加して下さい。神経検査分野は新人の方や、ベテランの方にとっても明日からの仕事に役立ててもらえるような勉強会を開催していきたく思っています。また、『こんなこと学びたい!』、『こんな話聞きたい!』といった講義内容の御希望などありましたら是非ともご連絡ください。

ひとつでも分からないことを解決してレベルアップしていきましょう！日常の検査における疑問点なども気軽に話し合えるような勉強会を進めていきたいと思えます。開催日時や内容は奈臨技ニュース等でご確認ください。よろしくお願ひします。

病理検査部門

～コロナ禍における病理検査～

泉屋 直輝

令和 2 年度より、奈良県臨床検査技師会の検査研究部門病理分野・分野長を務めさせていただくことになりました。今年度はコロナウイルスの影響もあり、様々な学会・勉強会が延期・中止となり、大きな戸惑いの中で日々の業務や分野業務に取り組む日々でした。さらにいまだコロナウイルスの完全な終息の目途はたっておらず、今後も予断を許さない状況が続いていきそうです。

検査の現場においては各分野で様々な対応がとられています。病理検査の現場においては術中迅速病理組織標本作製時の検体処理・病理診断および病理組織未固定標本、細胞診検体等の取り扱い及び感染予防策をおこなうことが対応として重要です。2020 年 4 月 9 日には「CAP 病理解剖委員会による COVID-19 病理解剖ガイドラインに関する声明」さらに 2020 年 5 月 27 日に、日本病理学会より「術中迅速病理標本作製・病理診断および病理組織未固定検体、細胞診検体の取り扱いについて—新型コロナウ

イルス関連—」としてガイドラインが提示されました。これらガイドラインに準拠され、検査をされている病理技師の方々が多数いらっしゃるのではないのでしょうか。

しかし、ガイドラインが示してくれるのは一般的に大まかな指針であること、各施設によって検査を巡る状況・環境は様々であることから、それぞれの施設で試行錯誤をおこなないディスカッションをしながらベストの方法を模索していく必要があるようです。コロナ時代においては人と人とが距離をとり、密を避けることが一般的によく言われるところですが、検査の現場においては人と人が距離をとりながらも様々な面で綿密に連携をとりながらコロナウイルスに立ち向かっていく必要があるとわたしは考えます。

今後も様々な学会・団体から、ガイドライン等の最新情報が発表されていくと思いますので、逐一情報をチェックし、柔軟に対応していけるように努力していこうと思います。

奈良県臨床検査技師会においても、Web での勉強会の準備が進められ、開催されています。

その他の学会・勉強会でも、Web 上でおこなうなど、世間が「with コロナ」になるに従って臨床検査技師も IT や情報デジタルなどの最新の知識を少しずつ取り入れて、柔軟にとりくんでいく必要があるようです。

コロナ時代というおおきな時代のうねりの中で分野長をさせていただくという貴重な経験を己の糧とし、今後も技師活動にとりくんでまいりたいと思ひます。

細胞検査分野

橘 郁真

今年度より細胞検査の分野長を担当する橘と申します。

細胞検査分野では、細胞検査士認定資格取得に向けた勉強会を Basic cytology と題し、平成 27 年より開催しております。細胞検査士認定試験には筆記試験と実技試験があり、合格率は 30%弱と大変難しい試験となっています。昨年は多数の講師の方々のご協力もあり、筆記試験対策や実技試験対策を合わせて 14 回開催することができました。昨年の受講者の中から数名が認定試験に合格され、細胞検査士として活躍されています。今年は鏡検実習に重点を置き、年間 18 回開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により断念せざるを得ない状況です。現在は、来年度の開催に向けて、開催頻度や内容を再検討しております。

近年、医学や医療の分野は急速な進歩を遂げており、それに伴って、細胞診を取り巻く環境も急速に変化しています。最近では、細胞診検体を用いた遺伝子検査も行われるようになりました。そのため細胞検査部門では、日常業務に役立つ基礎的な内容だけでなく、遺伝子検査等の新しい内容も含めた勉強会を行っていきたいと考えております。現在は、勉強会を開催できる状況ではありませんが、今後何らかの形で開催できるよう検討中です。

細胞検査分野は病理検査分野と合同の勉強会も多いため、病理検査部門と協力しな

がら皆様のニーズに沿えるよう努めて参ります。ご希望等ございましたら、些細な事でもご連絡いただけますと幸いです。慣れないことが多く至らない点多々あるかとは思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

輸血・移植検査部門

大前 和人

輸血・移植検査部門は、“明日から役立つ”ような、実際の臨床現場で活かすことのできる企画・運営をモットーに活動しています。例年であれば、年 5~6 回を目途に勉強会の開催を計画・実施しているのですが、2020 年度は、皆様ご存知のように、コロナ禍の影響のため、9 月現在、研修会を開催できていません。そのような状況は、我々、輸血・移植検査部門としては、非常に歯がゆく思っております。そこで、奈臨技検査研究部門として、コロナ禍の状況下でも研修会が実施できるよう、ひとつの手段として、“オンライン”での研修会の企画・運営をはじめ、2020 年 9 月に奈臨技として、はじめてのオンライン研修会が実施されました。輸血・移植検査部門としても、年度の上半期は、研修会を開催できませんでしたので、下半期には、オンライン研修会をいくつか実施したいと考えています。

皆さまの協力なくして、奈臨技輸血・移植検査部門の成長はないと言っても過言ではありません。これからも奈良県の輸血検査を一緒に盛り上げていきましょう！

2020年度 奈良県臨床検査技師会定時総会開催報告

令和2年5月31日（日）午前10時から奈良県立医科大学 大講堂において2020年度奈臨技定時総会が開催されました。当日の参加は理事・役員のみとなりましたが、委任状を含め506名と過半数を超える出席がありました。倉田副会長の開会宣言、勝山会長挨拶に続き、木下 真紀氏（天理よろづ相談所病院）、西原 幸一氏（市立奈良病院）の2氏により議事進行され、2019年度事業経過報告、決算報告、監査報告、2020年度事業計画の説明があり、承認されました。一般提出議題ではリモートによる会議・勉強会の運用要請、奈臨技ニュースなどの印刷配布物の中止に対する質疑があり、学術部、事務局より回答を行いました。その他質問などは無く審議事項はすべて終了したことが宣言されました。詳細は議事録を参照してください。

一般社団法人 奈良県臨床検査技師会 2020 年度定時総会議事録

開催日時：2020 年 5 月 31 日（日）10:00～10:30

開催場所：奈良県立医科大学 大講堂

会 員 数：650 名（5 月 31 日現在）

出 席 者：506 名（当日出席者 29 名、委任状による出席者 477 名）

欠 席 者：144 名

I 仮議長挨拶

嶋田事務局長から議長が選出されるまで仮議長を担当する旨、挨拶があった。

II 開会の辞

倉田副会長が、2020 年度一般社団法人奈良県臨床検査技師会定時総会を開催する旨、宣告した。

III 会長挨拶

勝山会長から、今年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策として、会員皆様には参加を自粛していただき、規模を縮小しての開催となったが、会員の皆様の代表として事業・会計報告や事業計画などの議案について議事を円滑に進めていきたいと発言があった。

IV 来賓の紹介と挨拶

嶋田事務局長から本年度は来賓の方の出席はないと報告があった。

なお、本年、3 月 18 日に名誉会員でありました山名 正夫様のご逝去され謹んでお悔み申しあげますとの発言に続き、故人の御冥福をお祈りするため出席者一同にて黙祷をささげた。

V 議長選出

仮議長から議長候補について出席者に自薦、他薦を求めるも候補はなく、仮議長が木下真紀（天理よろづ相談所病院）、西原 幸一（市立奈良病院）の二氏を推薦し、拍手多数にて承認され、議長就任の挨拶の後、議事に入った。

VI 議事

1. 総会役員を選出

木下議長から総会役員候補について出席者に自薦、他薦を求めるも候補はなく、事務局から下記の推薦があった。

〔議事運営委員（兼資格審査委員）〕

宇山 二美（宇陀市立病院）議事運営委員長、兼資格審査委員長

中村 彰宏（天理医療大学）
山本 賢治（済生会御所病院）
三角 由美（済生会中和病院）

〔書記〕

高田 穂波（奈良県立医科大学附属病院）
田中 忍（奈良県立医科大学附属病院）

2. 総会成立の宣言

宇山資格審査委員長から、本日の出席者数 506 名（出席者 29 名、委任状出席者 477 名）で正会員数（650 名）の過半数を超えているため総会が成立するとの宣言があった。

3. 議案審議

1) 第 1 号議案：2019 年度事業経過報告について

木下議長から、2019 年度事業経過報告について、一括報告後に承認を求めるとの説明後、下記の担当理事から議案書に基づき説明があった。

(1) 総括：勝山会長

2019 年度の大きな出来事としては、年度の終盤、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るい、感染拡大防止のため、奈臨技活動にもおいても、公開講演会や奈臨技会員の為の研修会をはじめ、各種研修会や勉強会が中止せざるを得なくなり、残念な結果となりました。

年度の前、中盤に開催した事業に関しては、学術部担当の各種研修会・勉強会も例年通り活発に開催され、会員の積極的な参加がありました。学術外事業では、福利厚生部担当の関西空港へのリクレーションや生涯教育部担当のベッドサイド実践講習会、臨床検査協議会講演会では、参加された方からは高い評価を得ました。橿原健康いきいき祭りでは、来場者数が 510 名と多くの方に訪れていただき、奈良県医療マネジメント学会では、奈臨技の精度管理事業をテーマに、技師会として初めて発表した。加えまして、今年度、若手中心の奈良若草の会が発足しました。本格的な活動は来年度からになります。他府県でも若手の会が結成され、活躍してますので、互いに活躍することを期待します。2019 年度の柱として、「患者安全」と「臨床検査技師制度の整備」を上げていましたが、研修会や講演を開催出来なかった事が反省点になると報告があった。令和元年、気持ちも新たに挑んだ年であり、会員の皆様の協力のお蔭で、無事定時総会を迎えることができたことへの感謝が述べられた。

(2) 事務局 総務部：嶋田事務局長

一般社団法人奈良県臨床検査技師会の定款に基づき、2018 年度事業経過・決算報告と 2019 年度事業計画・予算報告を定時総会にて実施し、議案書通り承認

された。2019年度は2年目役員による執行部であり、会員のご協力も得て円滑に事業を運営することができた。通常理事会の開催（計11回）、奈臨技ニュース、会誌等を事務局から一括して業者便とメール便を用いて会員へ配付を行ったこと、奈臨技ホームページアクセス数が年間約4.4万件一日平均122人であったこと、関連団体に理事や会員を派遣した事などの報告があった。

(3) 事務局 経理部：上杉経理部長

財政の健全化に向け、収入・支出の適正化を考えた上で技師会活動を活発・円滑に行うため、会費・助成金等が適正かつ効率的に運用されるよう予算を編成し、管理費、事業費共に予算内で執行したこと、税務処理を税理士のコンサルティングのもと、執行し、一般法人として公益法人会計基準の継続的適用を遵守することに努めた旨、説明があった。

(4) 組織法規部：柳田組織法規部長

技師会普及活動のため、「初級・職能開発講習会」開催を実施した。「奈臨技会員のための研修会」を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のため中止とした旨、説明があった。

(5) 学術部関係：森嶋検査研究部門担当部長

学術理事は4名体制で活動しており、検査研究部門、精度管理推進部門、生涯教育研修部門のそれぞれに担当理事を配置し、学術担当副会長を加えて、それぞれの委員会を中心とした活動を行った。

検査研究部門活動として、検査研究部門研修会および学会運営、日臨技・近畿支部への学会運営への協力を行った。第36回奈良県医学検査学会は、学会テーマを『臨床検査の「質」を再考する』とし、一般演題11題、特別企画（特別講演、ランチョンセミナー、教育セッション）を行った。精度管理調査は、61施設の参加があり日臨技システムを利用して実施した。生涯教育事業では、日臨技推進事業である「ベッドサイド実践講習会」が2日間にわたり開催され受講者は24名であった。臨床検査データ標準化委員会、精度保証施設認証委員会は、2019年度から1つの委員会とし活動を行った。長期精度管理調査の実施、ALP・LDにおいて、測定方法が2021年4月からIFCC法になることについての広報活動、日臨技精度保証施設認証施設が14施設であることが報告された。

(6) 渉外部：高木渉外部長

県民および会員を対象とした公開講演会を「人生100年 健康寿命の延伸に向けて ～生活習慣病を予防しよう～」をテーマに2020年3月1日（日）開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的パンデミックを受け来場者やスタッフ、講師の安全が保証できなくなり、直前の2月21日になり奈臨技本部より中止が決定されたのを受けて急遽中止となった事が報告された。

(7) 地域保健事業部：西川地域保健事業部長

県民への生活習慣病の予防や健康への啓発を目的とした県内の地方公共団体及び医療関係協会と連携した活動を実施し、「樫原市ふれあい・いきいき祭」では、約 510 名「なら糖尿病デー2019」215 名の参加があったことが報告された。

(8) 地域保健事業部 公衆衛生部門：南田公衆衛生担当部長

国民の健康づくりと検診の普及・啓発に向けて「がん撲滅のための検査展」を開催し約 378 名と多数の参加者があった。またに臨床検査技師の PR を目的として「樫原市ふれあい・いきいき祭」のイベントの一角で「検査相談コーナー」を開催し、奈臨技顧問医師が、11 名の方の相談に応じた旨、報告された。

(9) 福利厚生部：東谷福利厚生部長

技師会活動の傷害及び損害賠償保険加入連絡と手続きを行い、会員の親睦を深めるため、同好会助成内規に基づきアウトドア同好会を開催し、34 名の参加があった。尚、ボウリング同好会は計画をしたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け中止となった旨報告された。

(10) 広報部：岸森広報部長

今年度は会誌「まほろば」1 回 2019 年 12 月に発行した。「奈臨技ニュース」は毎月 1 回定期的に発行、また、奈臨技事業等を、デジタルカメラによる写真撮影を行い、活動を記録した旨報告された。

(11) 地区担当部：宇山地区担当

事務局と連携をとり、入会案内及び会員の異動、弔電等について対応し、奈臨技事業の実務委員推薦を行い、施設代表者・連絡責任者会議を開催した旨、報告された。

以上、各部局の事業経過について説明を受けたのち、木下議長から第 1 号議案について質問、意見を求めるも質疑なく、議長は拍手による承認を求め、過半数を超える拍手多数を持って承認された旨、宣告した。

2) 第 2 号議案：2019 年度決算報告について

木下議長は、2019 年度決算について、上杉経理部長に説明を求めた。

2019 年度決算：上杉経理部長

議案書に基づき要旨が説明された。貸借対照表、正味財産増減計画書、財務諸表に対する注記、財産目録について説明があった。

2019 年度決算について説明を受けたのち、木下議長から第 2 号議案について質問、意見を求めたが、質疑なく、議長は拍手による承認を求め、過半数を超える拍手多数を持って承認された旨、宣告した。

3) 第 3 号議案：2019 年度監査報告について

木下議長は、吉岡監事に 2019 年度監査報告を求めた。

2019 年度監査報告：吉岡監事

2020 年 4 月 15 日に 2019 年度事業及び会計について監査を実施し、事業計画等を円滑に遂行され、会計収支に不正がないことを認める説明があった。

以上、木下議長から第 3 号議案について質問、意見を求めたが、質疑なく、議長は拍手による承認を求め、過半数を超える拍手多数を持って承認された旨、宣告した。

4) 第 4 号議案：2020 年度事業計画について

西原議長から、2020 年度事業計画について、一括した説明後に承認を求めるとし、下記の担当理事から議案書に基づき、説明があった。

(1) 総括：勝山会長

今年度も奈臨技の目的に添い、職能意識を高めると共に、公衆衛生思想の普及・啓発、臨床検査の学術技能の研鑽・発展並びに医療及び公衆衛生の向上を図ることで県民の皆様の健康保持及び促進に寄与する活動を行います。事業計画としては基本的に例年通りの事業と大きく変わりはありません。今年度より各都道府県から日臨技理事を一名選出することになっています。2020 年度、2021 年度の日臨技理事は、奈臨技理事会にて、勝山が承認されましたので、その任を担わせていただきます。

今年度は、日臨技に準じて「臨地実習指導者育成」と「タスクシフト・タスクシェア」に関して研修会や講習会を開催することになります。「臨地実習指導者育成」に関しては、臨地実習単位数の増加に伴う実習施設体制の整備の為、臨地実習受け入れ施設に指導者が必要になることから指導者養成の講習会を開催することになっています。2024 年 3 月までには、臨地実習受け入れ施設では必ず指導者を 1 名は配置する必要があります。また、「タスクシフト・タスクシェア」に関しては、医師の働き方改革により、2024 年 4 月には医師の時間外上限規制が適用されます。これに伴う事業になりますが、このような大掛かりな法制度の改正は日臨技の歴史上でも画期的であり、日臨技はすでに積極的に取り組んでいます。奈臨技も日臨技と共に積極的に取り組みたいと思います。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の終息がまだはっきりとしない年度初めとなりましたが、事業活動をはじめとし、規約の見直し、他団体との交流と情報の交換を行うことにより、臨床検査技師制度が更に整備され、臨床検査技師が必要とされ続ける時代になる礎を築ければと考えるとの説明があった。

(2) 事務局 総務部：嶋田事務局長

今年度は、改選を迎え、各部局とも不慣れなことが多いと思うが、例年通り定款に基づき総会は年 1 回の定時総会、各種委員会の開催、2020 年 4 月 1 日に刷新した奈臨技ホームページの充実、日臨技への協力、などの説明があった。

(3) 事務局 経理部：上杉経理部長

議案書に基づき財政の適正化と一般社団法人としての会計基準の維持について要旨が説明された。財務諸表作成、支出報告書処理など会計業務を適正に処理し、公益目的事業費用規模の維持・継続に努める旨の説明があった。

(4) 組織法規部：柳田組織法規部長

会員加入促進、施設代表者会議の開催、奈臨技会員のための研修会の開催、関係法規に関することの説明があった。

(5) 学術部関係：森嶋研究部門担当部長

検査研究部門運営、精度管理推進事業、生涯教育研修事業に大別し、委員会を設置し運営し、以下のように活動していくと説明があった。

検査研究部門の運営：検査研究部門運営委員会が中心となり研修会を計画していく。特別企画として外部講師を招いた研修会も数回予定している。

奈良県医学検査学会：2020年度も日臨技の地方学会としての位置づけを明確開催にし、会員の臨床検査技術・知識の向上を目的に、テーマを『Toward the development of the 奈臨技！～令和を生き抜く臨床検査技師～』とし、3つの特別企画を準備する。

精度管理調査推進事業：日臨技のシステムを利用して行い、精度管理調査、データ標準化事業についても昨年度同様に実施する。

生涯教育研修事業は：基礎教科研修会として「統計処理研修会」を開催予定である。

データ標準化事業・精度保証施設認定委員会：2021年4月からのALP・LDがIFCC法に変更についての発信や精度保証認証施設の取得など委員会が中心となり活動していく。

(6) 渉外部：高木渉外部長

様々な情報が氾濫する中、この公開講演会では、専門家の立場から正しい医学情報を一般の方々に提供し、予防医学の普及・啓蒙を行い疾病に関する理解を深めていただき健康な生活を維持、増進してもらうことを目的として、状況に対応しながら取り組んでいくと説明があった。

(7) 地域保健事業部：西川地域保健事業部長

県民対象の医療や公衆衛生の啓蒙活動として、地方公共団体及び医療関係協会と連携した活動に協力すると共に、県民への臨床検査啓発活動を推進する説明があった。

(8) 地域保健事業部 公衆衛生部門：南田公衆衛生担当部長

日臨技の公益事業としてがん撲滅のための検診受診の啓蒙、STI 予防そして臨床検査のPR活動をとおして、国民の健康づくりに貢献するためや臨床検査技師を認知してもらう検査展を開催する旨、説明があった。

(9) 福利厚生部：東谷福利厚生部長

技師会活動の傷害及び損害賠償保険の加入、会員相互の交流、親睦を深めるため同好会活動の助成を行っていく旨、説明があった。

(10) 広報部：岸森広報部長

会誌「まほろば」を年1回発行、「奈臨技ニュース」を毎月1回定期発行を理事会の承認を経て実施する、との説明があった。

(11) 地区担当部：宇山地区担当

執行部と会員および会員施設との連絡調整を行うとの説明があった。

以上、各部局の事業計画について説明を受けたのち、議長から第4号議案について質問、意見を求めるも質疑なく、議長は拍手による承認を求め、過半数を超える拍手多数を持って承認された旨、宣告した。

5) 第5号議案：2020年度予算案について

西原議長は、2020年度予算案について、上杉経理部長に説明を求めた。

2020年度予算案：上杉経理部長

議案書に基づき、予算の説明があった。

2020年度予算案について説明を受けたのち、西原議長から第5号議案について質問、意見を求めたが、質疑なく、議長は拍手による承認を求め、過半数を超える拍手多数を持って承認された旨、宣告した。

6) 第6号議案：2020年度21年度年度役員について

西原議長は、2020年度21年度年度役員について、吉田委員長が欠席のため松岡選挙管理委員に説明を求めた。

松岡選挙管理委員長より：定款および役員選任規程に従い2020年1月1日より同年1月15日まで立候補の受付を行なったが、立候補はなく、役員推薦委員会に役員の推薦依頼を行ったところ第6号議案に提示した方々を2020年度、21年度の役員候補とした。承認をお願いしたい。

2020年度21年度年度役員について説明を受けたのち、西原議長から第6号議案について質問、意見を求めたが、質疑なく、議長は拍手による承認を求め、過半数を超える拍手多数を持って承認された旨、宣告した。

承認を受け、松岡選挙管理委員より理事を代表して勝山政彦氏に当選証書が授与された。

7) 第7号議案：一般提出議題について

西原議長は、事務局に一般提出議題の提案を求めた。

事務局：規定の総会 10 日前、5 月 20 日までに事務局に提出された議案はなかった。しかし、今回のコロナ感染予防対応として会員には委任状による参加を勧めた。そこで、事前に質疑を受け付けたところ、A 会員より、「政府からもリモートによる会議などを推奨していますのでぜひ総会で今年度の予算にリモートによる会議および勉強会の運用実行予算を議決して頂きたいです」と申し入れがありました。森嶋学術部長より回答致します。

学術部回答

日本臨床検査技師会より令和 2 年 5 月 28 日付で「令和 2 年度都道府県技師会主催研修会・講習会の運用について」通知があり、新型コロナウイルス感染症拡大のため研修会・講習会の通常開催が厳しい状況が続いているため、「オンライン研修会等」に関する暫定処置が決まりました。

このことから、奈良県臨床検査技師会では学術部検査研究部門運営委員会で「オンライン研修会等」の実施にむけて予算の範囲内において準備を進めたいと思います。

質疑が B 会員より 2 点。1 点目「奈臨技ニュース・定時総会議案書などの配布物の中止とこれらをホームページのみで運用すること」を質疑に加えてください。目的は不要な経費の削減です。

一部必要とする会員がいるのであれば、その数と会員全体に対する割合を示して明確な情報に基づいて審議してください。と質疑がありました。

事務局回答

事務局よりお答え致します。まず、必要とする会員数につかましての詳細な調査は現時点では不明です。印刷物の費用は、毎号ニュース印刷費に年間 17.5 万円。郵送料に 18.5 万円。まほろば印刷費に 46.2 万円。議案書印刷費に 11.8 万円必要となっています。以上を踏まえ、今後の理事会にて検討を進めたいと思います。

B 会員より 2 点目「今年度、奈臨技主催の講習会が開催されないまたは回数が大幅に減少するのであれば、会員に対して会費から一定額を返納または来年度会費の減額を求める。」

理由といたしましては、講習会への無料参加が会員にとって奈臨技入会の理由になっていると思われるためです。

個人的な事ですが、通っているスポーツジム(大阪)が緊急事態宣言以降営業できなくなったためそこから現在まで会費が無料となっております。

全会員のうちで講習会に参加している者の割合や今後の社会情勢などを考慮して審議してください。

事務局回答

- ①部門運営費は奈臨技総収入の約 1/10 であること。
- ②部門運営費を研修会回数（71 回）で除しますと 1 回の研修経費が約 1 万円（9282 円）
- ③昨年の総参加者数はのべ 1375 名。これを部門運営費で計算しますと一人当たり 479 円となります。
- ④研修会参加は任意である。

以上より、奈臨技の総予算の約 1/10 の予算を使用しているが 9/10 は研修会以外の事業もしくは運営に必要な経費であること。修会参加は任意であり、公平を期する返金は困難であること。などの理由により研修会実施不可に伴う現段階での返金は難しいと思われます。

しかし、学部部を始めとするすべての部局での活動が停止しているため、予算執行率は大幅に低下することも事実かと考えられます。今後については理事会にて検討を進めて参りたいと思います。

その他、質問等なく、西原議長からこれを以って本日の審議事項はすべて終了したことを宣告した。

VII 総会役員及び書記の解任

西原議長から総会役員及び書記を解任する旨の通告と、協力への謝辞が述べられた。

VIII 議長挨拶

西原議長から議事進行の協力に対して謝意が述べられた後、自らを解任する旨、宣告した。

IX 閉会の辞

中田副会長から一般社団法人 奈良県臨床検査技師会 2020 年度定時総会の閉会宣告が行われた。

以上、式次第はすべて終了し完了した。

2020 年 5 月 31 日
一般社団法人 奈良県臨床検査技師会

会 長 勝山 政彦

監 事 長谷川 章

監 事 吉岡 明治

新型コロナウイルス感染症への取り組み

①当検査室における SARS-CoV-2 検査に対する取り組み

奈良県立医科大学附属病院 中央臨床検査部 病原体検査室 小泉 章

<PCR 検査体制構築までの流れ>

当院における SARS-CoV-2 遺伝子検査は当初、微生物・感染症医学教室から開始され、その後一時的に外注検査でしのぎつつ、検査室における PCR 検査体制の構築の準備を次のように進めました。

①防護具を中心とした医療消耗品や PCR 検査体制の早期構築を目指した検査試薬消耗品の確保、②検査室内の感染対策マニュアル作成と実技講習会の実施、③院内全体における検査運用の決定と周知、④検査機器の新規導入に向けた構想と準備、⑤PCR 検査精度の検証試験の実施、⑥検査および機器操作マニュアルの作成、⑦検査実施要員のトレーニング等。以上の段階を経て、漸く 5 月 1 日から中央臨床検査部にて PCR 検査を開始することが出来ました。

その過程で直面した大きな課題の一つとして、微生物検査室を除いた検査室内の感染対策があげられます。

<ガイドラインに基づいた検査室内における感染対策の変遷>

微生物検査室は、一類感染症疑いの患者検体を取り扱い可能な P3 検査室を有しており、結核菌検査を除く微生物検査は P2 検査室で検査を実施しています。したがって SARS-CoV-2 に対する感染対策において、非常に充実した検査環境で行えています。しかしながら、日常検体検査の検査室内感染防止対策においては、当初 SARS-CoV-2 自体の感染力と毒性、ウイルスが存在する可能性のある臨床検体などについて信頼できるエビデンスが少ない中で、微生物検査技師を除く検査技師が行う感染対策が大きな課題となりました。そこで、2020 年 2 月 10 日に報告された日本臨床微生物学会の提言「新型コロナウイルス感染（疑いを含む）患者検体の取扱いについて」を感染対策の骨子とし、SARS-CoV-2 限定の検査室内マニュアルの作成と同時に、日常検査業務に従事する技師を対象とする、感染対策実技講習会を行いました。日本臨床微生物学会の提言は、検査業務に際するエアロゾル発生対策を厳密に行うことで、感染リスクを極力低下させる点で非常に優れている反面、日常検査業務においては、大きな足かせとなっていました。そこで、2020 年 4 月 13 日（第 1 版）に報告された日本臨床検査医学会および新型コロナウイルスに関するアドホック委員会の提言「日常検査体制の基本的考え方の提言」に基づき、感染対策の緩和措置を施しました。具体的には、エアロゾルリスクの高い作業とされる採血管の開栓と分注作業および検尿検査を P2 検査室の安全キャビネット内で実施していましたが、自動搬送システムおよび自動分析機器を使用することで日常検査ゾーンでの実施が許容されたことと、同ゾーンに卓上安全キャビネットを設置したことで、P2 検査室への移動頻度が激減したことが大きな業務改善に繋がりました。尚、各種迅速ウイルス抗原検出キットを用いた検査については、継続して P2 検査室の安全キャビネット内で実施しています。

新型コロナウイルス感染症への取り組み

② PCR 検査開始までの遺伝子検査室の取り組み

奈良県立医科大学附属病院 中央臨床検査部 遺伝子検査室 山口直子

新型コロナウイルスによる感染拡大が大きくなって来た頃、当院検査部でも検査開始への模索が始まりました。検査部の立地から考えても、人員配置から考えても、機器や試薬から考えても足りないものだらけであることから、感染対策と PCR 検査では明らかに同じ部署での施行は無理があり、とりあえずは病原体検査室と遺伝子検査室でタッグを組んでの開始について共同での話し合いが続きました。

採取方法や保存、抽出の有無や PCR 検査の試薬の選択等についてはわからないことだらけの中、何種類もの PCR 試薬についての検討を行いながら、供給に不安がなく、扱いが簡単で、感度が当初の感染研と比べても遜色ないとして、Sysmex 社の試薬を用いての検査と決まりました。抽出については、遺伝子検査室で使用していた自動抽出装置を、病原体検査室へ移して行うことになりました。

自動抽出装置が移動になり、今までのルーチンの抽出を手作業で行わないといけなくなったこと、さらに1日2回のコロナウイルス PCR 検査を行うことで、血液検査を兼務している係員3名の遺伝子検査室は、急に多忙になりました。

その上に、休日の PCR 検査です。病原体検査室で抽出に1名、こちらで PCR に1名でしたが、係員3名ではあまりにも少なすぎます。急遽生化学と一般検査より経験がある若い人2名を応援要員として勉強してもらい、休日の PCR 検査に入ってもらうことで体制がとれました。

コロナの PCR 検査を実際にされた方であればお分かりと思いますが、反応曲線の立ち上がりが遅い Ct 値の高い検体がしばしば見られます。非特異なのか何なのか・・・最初の頃は全く分からず、陽性か非特異かと右往左往するばかりでした。いろいろな検討を行い、皆で会議を進めることで、こういったわからない現象への理解と対応が出来てきました。

現在は、非特異の鑑別がより簡単な試薬へ変更することで、さらに安定した PCR 検査が可能になりました。感度の検討も出来たということで、休日については LAMP 法への移行も準備しています。

今後は新型コロナ検査が全自動検査機器へ移行し、さらに終息が近づけば、遺伝子検査での対応もとりあえずは終わるかと思えます。ただ、今後もこういった新しい脅威への対応については、検査部署の垣根を超えた協力によって、乗り越えられるのではないかと感触を持つ事ができました。

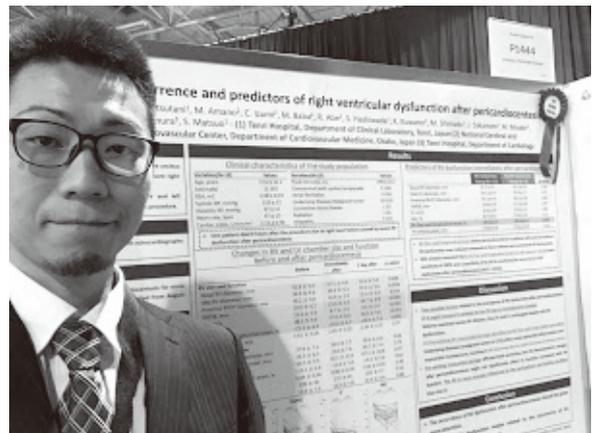
Euro Echo 2019 に参加して

天理よろづ相談所病院 臨床検査部

松谷 勇人

2019年12月4日～7日に、オーストラリアのウィーンにて開催された Euro Echo 2019 というヨーロッパの心エコー図学会に相当する国際学会に参加してきました。この学会に参加するきっかけは、前年度まで天理よろづ相談所病院でお勤めになり、国立循環器病研究センターに栄転なされた循環器内科の泉先生、天野先生からのお誘いでした。当初は、1週間も出張？英語での発表？？そんなことなど到底無理だろうと思っておりましたが、演題登録からポスターの添削までに及ぶ両先生のお力添えと、検査室や家族の後押しをいただいたおかげで、海外での大きな国際学会にて発表をすることができました。まずは、このような機会を与えていただいた、関係の皆様本当に感謝申し上げます。

出発日は関西国際空港を 10時に出発し、ドイツのミュンヘンを経由してウィーンに現地時間18時に到着しました。日本とオーストラリアには 8時間の時差があるので日本時間では夜中の 2時に相当します。ですが、緊張からか飛行機でもウィーンのホテルでもなかなか寝れなかったのを覚えています。学会初日の朝は、地下鉄をいくつか乗り換えながら、会場のメッセウィーンに向かいました。学会会場ですぐ目についたのは、音楽の都と呼ばれるウィーンだけあって、会場名に MOZART(モーツァルト) や HAYDN(ハイドン) といった作曲家の名前が用いられておりました。奈良に置き換えるのであれば「鹿」、「大仏」という感じでしょうか。なんともダサくなってしまうところが奈良らしいのですが、これがおしゃれに



決まるところが、ヨーロッパの学会だなと感じました。また、機器展示ブースでは、最先端のVR（バーチャルリアリティー）機能を搭載した経食道心エコーのシミュレーターなどの装置の展示も多く、バロックな会場名と超最先端の装置のギャップが、なんとも言えない世界感を感じさせてくれました。

当然ながら、発表は全て英語ということで、何をしゃべっているのはほとんど分からないものの、エコー画像は共通言語といますか、画像を見ているだけで何となく内容がわかるというのが面白かったです。自身の発表は、ポスター発表でありましたが、事前にHigh Score Posterに選出されたこともあり、何人かが質疑に来られました。こちらも、同行していた両医師に助けてもらいながら何とかやり過ごすことができました。

発表までは緊張でなかなかヨーロッパを感じる余裕が無かったのですが、自身の発表が終わり、ウィーンの街に目を向けてみると、現地ではクリスマスシーズンということもあり、街中のいたるところで朝から夜遅くまでクリスマスマーケットが開催されていました。滞在期間の最高気温は3度、最低気温は-5度という寒い時期でしたが、ホットワインを片手にクリスマスマーケットを散策するという思い出もできました。他にも、ヨーロッパでかつて栄華を極めたハプスブルク家の夏の離宮として使用されていたシェーンブルン宮殿の観光や、チョコレートケーキの大様と称されるザハトルテ発祥の地、ホテル・ザッハーで本場の本物のザハトルテを堪能し、世界三



三大オーケストラとして名高いウィーン楽友協会ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートも聴かせていただくことができました。

現在はコロナ禍のため、あの時期でなければ参加も難しかったであろう国際学会に参加できたことは本当に運が良かったのだと思いますし、自分一人の力では到底参加は叶わなかったとも思います。今回の経験を活かし、今後も日常のルーチン検査に全力で臨みながら少しずつでも学術的な活動を継続できるよう、た後輩にも後に続いてもらえるように努めていきたいと思えます。大オーケストラとして名高いウィーン楽友協会ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートも聴かせていただくことができました。



技師連盟活動の重要性について

日本臨床検査技師連盟奈良県支部長

倉田 主税

本年は新型コロナウイルス感染症の影響により瞬く間にパンデミックが発生し、私たちの暮らしや取り巻く環境が一変しました。医療界や関連機関がこの感染症との戦いに挑むなか、メディアでも連日、大量の情報が流れています。医療従事者の頑張りが報道され検査情報も毎日のように伝えられていますが、耳にする言葉は医師、看護師であり、臨床検査技師はというと大阪府の吉村知事が「検査技師」とおっしゃられていた以外ほとんど聞くことはなかったように思います。

臨床検査技師が検体採取や検査の最前線で実施にあたり本来なら世間の認知度も高く、一番にメディアに取り上げられるべきだと思いますが現実は大きく違います。臨床検査技師は名称独占資格です。当たりまえのことですが肩書きを名乗ることができ、資格を有していない者は名称を名乗ることができない資格です。それよりも一歩進んでその資格でしか行えないように有資格者のみが行える業務独占へ変えていかなければなりません。現状、医師、看護師は臨床検査技師の業務を全て行えます。業務制限がある生理検査 16 項目を含めた生理検査は本来は看護師の業務独占で、検体検査にいたっては法的には無資格者でも行えます。

歯科を除く医療職で資格がないと業務をやってはいけない完全な業務独占を有しているのは医師、助産師、看護師、薬剤師、診療放射線技師のみです。医師は、医師免許がないと診療や治療などの医業は行えません。看護師は看護師免許がないと傷病者の療養上の世話である看護と医師の指示を受けての医療行為である診療補助は行えません。診療の補助は看護師の仕事で看護師の業務独占です。つまり、看護師しかやってはいけない診療の補助だが、臨床検査技師の資格を取った人は特別にその中の検査の仕事をしているだけということになります。

看護師はどのようにして業務独占と地位の確立を得てきたのか、看護連盟のあゆみを紹介します。日本看護協会は看護職の地位向上、環境を改善するには政治の力が必要であると、創立直後から一貫して国政の場へ看護の代表を送り続けてこられました。なぜなら看護職と関わりの深い制度、法律をつくったり改正したりすることは国会議員にしかできないからです。看護協会の目指す施策、制度、法律を実現するために看護連盟が創設され看護職の地位向上、環境改善のために活動を続けてこられた結果、私が知っているだけで、6名の現職の国会議員がおられます。一方、臨床検査技師は1名です。

奈臨技ニュース 314号にて、他の医療職に比べ臨床検査技師の連盟加入率が異常に

低いという記事を掲載しました。医師連盟への加入率は、免許取得者数に対して約31%、歯科医師連盟は約52%、看護連盟は約21%の加入率ですが、臨床検査技師連盟はわずか約0.9%です。業務独占がない臨床検査技師の連盟加入率が一番低くなっています。

今後の活動について臨床検査・臨床検査技師を取り巻く厳しい状況を打破するために現状を把握し、状況をどう変えたいのか、変えるべきなのか今後の方針や目標を定め、そのためにはどのような行動が必要なのか行動指針を示すことが大切です。充分にできている学術至上主義からの脱却を考え、業務独占を勝ち取ってこられた他の連盟がある程度見習うことも必要だと思います。法律を変えるのが一番ですが、自分たちの業界と仕事をアピールすることも大切です。臨床検査技師会はもとより、臨床検査技師が働く業界全体で同じ思いと同じ意志を共有することが大切で、「何をしても変わらない」「私の職場には関係がない」「あと少しで退職」「誰かがしてくれる」ではなくて、一人ひとりの考え方のリセットが重要です。他の業界も長い時間をかけて政治運動してこられた結果が地位向上に結びつきました。私たちの草の根運動が今後必ず臨床検査技師の地位向上および業務独占に繋がると信じています。臨床検査業界、そして臨床検査技師の未来のために技師連盟に加入していただきますようお願いします。

編集後記

今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で多くの技師会行事が中止・延期となり大変な1年となりました。その中においても無事、「まほろば」の発行ができましたのは原稿を書いて頂きました会員の皆様のおかげと感謝しています。ありがとうございました。今後、取り上げて欲しい内容、意見などございましたら教えていただければ幸いです。「まほろば」が皆様に少しでもお役に立つことを願っています。

広報部 小林 昌弘

	一般社団法人 奈良県臨床検査技師会 会報 第34巻
2020年12月	
発行人	勝山 政彦
編集責任者	小林 昌弘
編集委員	井本 真弓 今村 仁美 松岡 直子 宮林 知誉 森分 和也 森田 唯花 山下 亜衣 木下 真紀
事務所	奈良県磯城郡田原本町宮古404-7 奈良県健康づくりセンター内
印刷所	竹田印刷株式会社